

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立幸崎中学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	本年度結果 偏差値平均	54.3	51.9	52.1	56.7	54.7	53.3
2年	前年度結果 偏差値平均	50.5	46.2	49.5	48.5	53.4	49.7
	本年度結果 偏差値平均	51.6	50.3	49.5	50.9	51.4	50.8
3年	前年度結果 偏差値平均	47.7	49.0	49.7	50.4	48.7	48.0
	本年度結果 偏差値平均	48.4	48.8	45.8	48.3	49.3	48.1
全体	前年度結果 偏差値平均	51.4	49.9	51.9	51.3	52.9	51.3
	本年度結果 偏差値平均	51.8	50.5	49.6	52.2	52.0	51.0

②全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学	英語
前年度結果 (対県比)	77 (112)	67 (134)	/
本年度結果 (対県比)	64 (91)	45 (92)	45 (105)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、2年生の「要点をとらえ内容を解釈する」(56.6%)、3年生の「文章を整え感想や意見を伝え合う」(35.6%)で課題が見られた。 ●社会では、1年生の「国民主権と政治のしくみ」(53.1%)、2年生の「歴史の流れと時代区分」(36.8%)で課題が見られた。 ●数学では、1年生の「起こり得る場合」(42.9%)、2年生の「多数回の試行による確立」(55.3%)、3年生の「平行線や多角形の角の性質」(41.2%)で課題が見られた。 ●理科では、2年生の「動物のなかま」(55.3%)、3年生の「化学変化と物質の質量」(44.3%)で課題が見られた。 ●英語では、3年生の「長文の概要や要点を読み取る」(40%)で課題が見られた。 	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える」(40.0%)、「読み手の立場に立って、文章を整える」(30.0%)で課題が見られた。 ●数学では、「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見出し説明する」(10.0%)で課題が見られた。 ●英語では、「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く」(0%)で課題が見られた。
--	--

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標（何を、どの程度達成するか）	達成のための具体的取組（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が思考スキル・シンキングツールICTを活用した授業を実施し、生徒が主体的に自分の考えを整理・分析する力を身につけ、思考力を育成する。</p> <p>○全教諭が「問いの解決」を意識した授業実践を行い、学習意欲の向上を目指す。</p>	<p>①NRTとQUの結果分析と改善計画の検討(教科、学年で)</p> <p>②①を受けて、年間スケジュールの計画と全体共有</p> <p>③思考スキル・シンキングツールの活用を軸とした授業づくり、校内研修の実施。</p> <p>④NRTの課題から、アシストシートや類似問題を活用した取組の実施と結果の検証。</p> <p>⑤基礎基本の徹底。小テスト、単元テスト等、個に応じた指導の実施。</p>	<p>①6月</p> <p>②7～8月</p> <p>③年間計画に沿って実施</p> <p>④2学期～3学期</p> <p>⑤年間を通じて実施</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値の向上。(全学級1回目以上)</p> <p>・アシストシートや類似問題の正答率を60%以上。</p> <p>・定期試験等での、知識・技能問題の正答率50%(C層)</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全学級において、目標を持って意欲的に取り組める機会をつくる。 ●全学級で一生涯行動する生徒を認め、安心して表現できることに気づかせる。 ●全学級で自己肯定感を高め、仲間の大切さを実感できる機会をつくる。 	<p>①Q-U1回目の結果の分析と全体での共有</p> <p>②縦割り班を活用し、生徒主体の行事・体験活動の実施(郷土芸能、群読、委員会活動等)</p> <p>③気になる生徒についての状況や関わり方を生徒指導委員会や教育相談委員会等、全教職員で共有。</p> <p>④担任との面談。</p> <p>⑤Q-U2回目の結果の分析と全体での共有</p>	<p>①6月</p> <p>②通年</p> <p>③日頃の連携、生徒指導委員会・教育相談委員会(月1回ずつ)</p> <p>④学期に1回</p> <p>⑤3学期</p>	<p>・Q-U2回目の結果において、一次支援の数値向上。(全学級1回目以上)</p> <p>・学校評価アンケート「自分の良さは周りから認められていると思う」の肯定的評価75%</p>